

課題番号 : 29指定1035

研究課題名 : 在留外国人結核患者の療養支援に関する研究

主任研究者名 : 野中 千春

キーワード : 在留ベトナム人・在留中国人・結核・保健師・結核療養支援

研究成果 :

日本における外国出自結核患者の治療完遂・療養支援における現状と課題を明らかにすることを目的に、国内外の文献レビューを実施した。文献検索は、医学中央雑誌 Web 版、Pub Med、及び CINAHL の各データベースを用いて「在留外国人：migrants」「結核治療：tuberculosis treatment」「アドヒランス：adherence」「質的研究：qualitative research」のキーワードを掛け合わせて実施した。対象出版年は2007年から2017年とした。その結果、115文献を抽出し、帰納的に分析した。

1940年から1950年にかけて、日本の死因の第1位は「結核」であり、「結核」は「国民病」「亡国病」と呼ばれていた時代があった。その後、生活水準の向上や抗結核剤が開発されたことにより、死亡者数は減少した。しかし罹患率は1995年頃より減少率が鈍化し、1997年には再び増加した。1999年には「結核緊急事態宣言」が発令された。2000年には、入院患者を対象とした日本版DOTSが導入され、入院中の患者は医療機関のスタッフによる「院内DOTS」の下で確実な服薬を行い、退院後は保健所が核となり、院内DOTSから地域DOTSへ継ぎ目のないDOTSを行うために、公衆衛生の専門職である結核担当保健師を中核とした支援がなされている。

2015年度の結核統計によると、外国出自新規登録結核患者数は1,164人(6.3%)で、3年連続で1千人を超え、年代別では20～29歳が最も多かった、その6割が5年以内入国者であった。また患者数の多い国籍は、フィリピン、中国、ベトナム、ネパールの順となり、なかでもベトナム出自の患者が急増していた。外国出自結核患者が多い理由は、①結核罹患率の高い国々からの入国者、②来日後の不規則な生活に伴う栄養不良、③慣れない環境によるストレスなどが起因し結核を発症してしまうことや、④共同生活、⑤職場・語学学校などでの集団感染が主であった。そこで、結核患者の早期発見を目的に職場や学校での検診事業が行われておりが、結核と診断され入院加療をしても、退院後の急な国外転出による治療中断となる事例があるため、結核担当保健師の多くが、療養支援に難しさを感じている実情があった。

一方、低蔓延国である欧米や豪州でも高蔓延国からの移民・難民の結核発症率が高く、入国後2年以内に健康診断を課すことや定期的な観察の必要性が唱えられていた。特に、欧米では入国前結核スクリーニング対象外の留学期間1年未満の短期留学生の結核罹患率が、他の外国出生入国者の約2倍に達していた。その短期留学生の治療行動は、留学生の出自や結核に対する『知識・態度・信念』が影響しており、それらを把握するための質的記述的研究が蓄積され、療養支援の一助となっている。反面、日本人結核患者の治療行動に関する意識や態度などを帰納的に分析した研究はあるが、外国人結核患者に関する研究の多くは統計的なものが多く、治療に対する理解や捉え方を質的記述的に分析した研究は乏しかった。すなわち、外国人結核患者の結核に対する『知識・態度・信念』を把握することが治療完遂・療養支援充実への足掛かりとなることが明らかになった。

以上の結果より、本研究対象者の選定条件を、留学生の中で最も多い中国出自の結核患者6名、近年、著しく増加しているベトナム出自の結核患者6名とし、①活動性結核（肺外結核、多剤耐性結核を除く）を患い入院加療後外来通院中の者、②性別は問わない、③年齢は20代、④日本語学校での就学目的に来日した者（現在、就学をしていない者を含む）とし、かつ研究の趣旨に同意し、通訳者を介したインタビューに承諾が得られる患者とした。

文献レビューの結果を取り纏め、6月20日-22日に韓国で開催される the 7th Global Congress for Qualitative Health Research にて口演発表した。

研究進捗状況に関しては、対象施設の倫理委員会承認を2017年8月に得て、2018年5月に1名エントリーがありインタビュー調査を実施した。また、現在、対象者の選定条件にあてはまる2名に対し、研究概要の説明・同意取得にむけて準備を進めているところである。

また、調査施設が一施設のみでは、データ収集の難しさを感じ結核研究所に相談をしたところ、選定基準を満たす対象者は23区内に散在しているため、対象施設を追加した方が良いとの助言を受けた。そのため、他の施設の倫理審査受審準備を進めている状況である。二施設を研究の場とすることで、本年度中にデータ収集を迫えることを目標とし活動していく。

以上

Subject No. : 29 -1035

Title : Study on the medical treatment support of foreign-born tuberculosis patients

Researchers : Chiharu Nonaka

Key word : residence Vietnamese and residence Chinese, Public health nurses,
Tuberculosis care support

Abstract :

In order to clarify the current situation and problems in the tuberculosis(TB) treatment care support of foreign-born patients in Japan, it was carried out literature review of foreign and domestic research to reveal the current state and challenges related to medical care and treatment of foreign-born tuberculosis patients in Japan.

This review was conducted using a combination of the keywords: “migrants,” “tuberculosis treatment,” “adherence,” and “qualitative research” in the Japan Medical Abstracts Society, Pub Med and CINAHL (Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature) databases. Range of publications was limited from 2007 to 2017. Consequently, 115 documents were found and an inductive analysis performed.

In the past, TB was the leading cause of death in Japan; however, the rising standard of living and development of anti-TB drugs resulted in a decrease in mortality rate. However, since 1995, the rate of decrease in morbidity began to decline before rising again in 1997; thus, Japan is still a moderate burden country. Recently, foreign TB patients have become an issue, reaching more than 10,000 cases for three consecutive years, the majority of who are people in their twenties, who have been in Japan for less than five years. In low burden regions such as Europe, America, and Australia, due to the high risk of TB in refugees and immigrants from high burden countries, medical examination within two years of entering the country and important periodic monitoring are recommended. In particular, in Europe and US, the TB incidence rate for short-term students, who are exempt from pre-entry TB screening with a stay of less than one year, is twice that of other foreign visitors. Moreover, the treatment behaviors of students on short-term stay were found to be influenced by their origin and TB-related knowledge, attitudes and beliefs. Qualitative descriptive research has been shown to be an efficient means of understanding these factors and aiding medical care. Meanwhile, the reasons for Japan’s high number of foreign TB patients are (1) visitors from high burden countries, (2) malnutrition due to an unregulated lifestyle after entering Japan, and (3) although adjustment-related stress and so forth are issues, increased numbers of infected persons are due to group infections at work and language schools, where individuals do not visit the doctor despite feeling unwell. Late diagnosis of foreign TB patients is assumed to be influenced by origin and TB-related “knowledge, attitudes, and beliefs”; however, although inductive analysis of the qualitative research concerning Japanese patients’ understanding of and views on treatment exists, there is inadequate qualitative research involving foreign patients. An understanding of TB-related “knowledge, attitudes, and beliefs” of foreign TB patients would improve medical care and treatment completion.

課題番号 : 29指定1035

研究課題名 : 在留外国人結核患者の療養支援に関する研究

主任研究者名 : 野中 千春

キーワード : 在留ベトナム人・在留中国人・結核・保健師・結核療養支援

研究概要

外国人新規登録結核者数は年々増加傾向にある。特に東京都の患者数は最も多く、日本語学校等での検診を強化している。しかし早期に治療開始となっても治療中断割合は高い。治療中断理由には、経済的・文化的な理由があることが推察されるが、その実態や支援状況を詳細に調査した研究は皆無に等しい。

そこで外国人結核患者の療養経験及び保健師らの外国人結核患者支援の実態を質的に調査し、効果的な支援の方策を探索する。

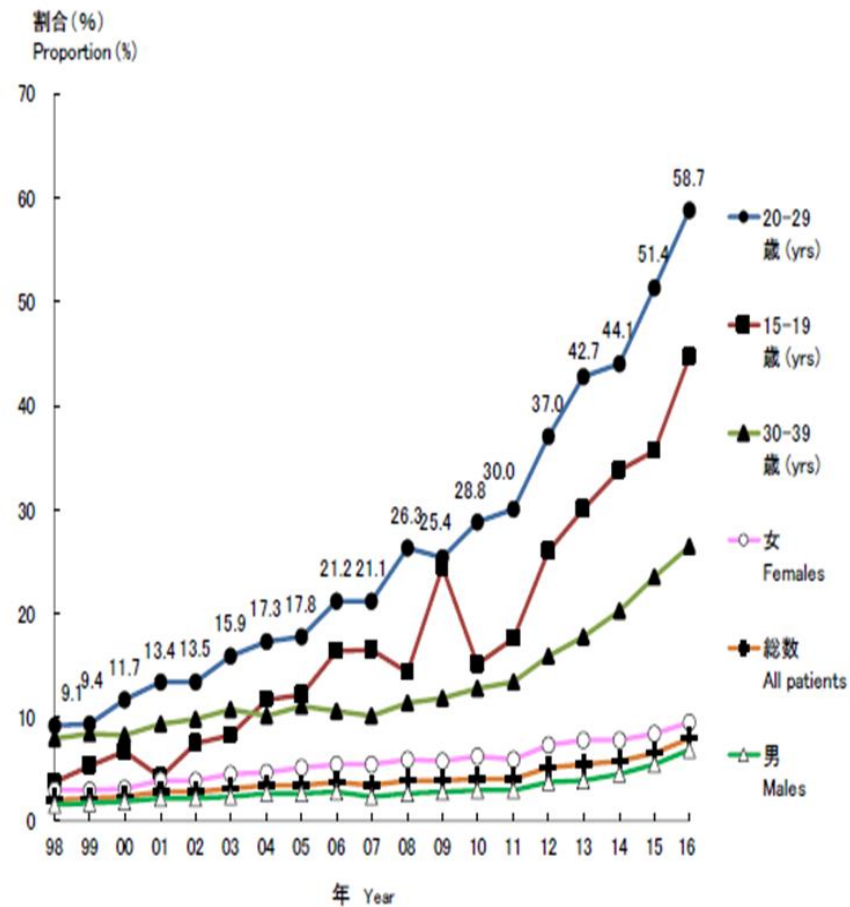


図3 新登録結核患者に占める外国生まれ結核患者割合の推移、性別・特定年齢階層別、1998～2016年
Fig. 3 Annual trend of proportion of foreign-born among newly notified tuberculosis patients, by sex and age group, from 1998 to 2016

割合：国籍または出生国不明を除く。

Those whose country of birth is unknown are excluded from the numerator.

29指定1035_在留外国人結核患者の療養支援に関する研究

1年目

- 文献レビュー実施: 研究計画書改変・論文投稿(1月_海外)
- 倫理審査受審(6月)・倫理審査承認(8月)
- 研究協力依頼(10月)
- 情報収集活動: DOTS会議参加

以下の研究参加者のエントリー待ち



2年目

A
在留ベトナム人結核
患者への質的調査
(エントリー待ち)

B
在留中国人結核患者へ
の質的調査
(1名終了,2名エントリー待ち)

- 研究対象施設の追加に関する検討
- B施設倫理審査受診準備
- 学会発表(6月_海外)
- 学会参加(6月_日本)
- 情報収集活動: DOTS会議参加予定

C保健師による外国人支援の実態調査

- A・B調査が終了次第実施予定

データ収集・分析

- データ収集と同時に随時、分析開始



3年目

データ収集・分析・結果まとめ
各調査結果を統合し、外国人支援の方策としてまとめる

研究発表及び特許取得報告について

課題番号： 29指定1035

研究課題名： 在留外国人結核患者の療養支援に関する研究

主任研究者名： 野中 千春

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
該当なし				

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
Literature Review OF IMPROVED Medical Care and Treatment Completion OF FOREIGN Tuberculosis Patients in Japan	Chiharu Nonaka	the 7th Global Congress for Qualitative Health Research	soul, Koria	2018年6月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。

※主任研究者が班全員分の内容を記載のこ